

島根県公共事業再評価委員会 質疑応答

件名	令和3年度 第2回島根県公共事業再評価委員会
開催日	令和3年8月24日(火) 12:45～15:15
場所	大田市内
出席者	●委員 上野和広、武邊勝道、常國文江、寺田哲志、 豊田知世、長廻英夫、松浦俊彦、三輪淳子、吉岡有美 ●県 土木部 技術管理課長、農林水産部 水産課 計画 G 他
議事	現地調査 ・水産基盤整備事業 和江地区(久手港、和江漁港、五十猛漁港)

質疑応答

◇審議地区

水産基盤整備事業 和江地区

1. 現地での質疑(久手港荷捌き所にて)

(委員) 市場の集約に伴って、氷の調達はどうしているのか？

(水産課) 各々で調達されている。

(委員) 市場の集約のメリットは、魚種が多くなることか？

(水産課) 魚種だけでなく様々なサイズを揃えたり、取り扱う数量が大きくなることで、大口の仕入れなどにも対応出来るようになる。

(委員) 防砂堤の設置目的は？

(水産課) 港内への砂の堆積を防ぐものである。

2. 現地での質疑(和江漁港高度衛生管理型荷捌き所にて)

(委員) 沖防波堤の延長・向き決定根拠を教えてください。漁業者の理解は得ているのか？

(水産課) 航路幅の確保や波の方向・守るものの位置などを考慮し、最終的に漁業者と相談して決定している。

(委員) 高度衛生管理の実施に伴い、魚の品質が向上したと言えるのか？

(水産課) 品質の中でも衛生管理面が向上した。

(委員) 発泡スチロールの品質や氷の品質も向上しているのか？

(JF) 以前と同じものを使用している。

(委員) 鮮度が高いとはどういうことか。魚の鮮度の判断基準はあるのか？

(水産課) 鮮度は時間の経過とともに低下するので、水揚げからの時間経過が短いものは鮮度が高いものと言える。

一般的に鮮度の高いものは刺身用に使われ、鮮度が低くなると焼き物や煮物用に使われる。

(委員) 「どんちっち」は和江の魚も含まれるか？

(水産課) 含まれない。「どんちっち」は浜田漁港に水揚げされ、一定の条件を満たしたものに限られる。

(委員) 電動フォークリフト、LED 電球を使用しているが、その他に化石燃料を使用しないなど、環境負荷に配慮した機械類はあるのか？

(水産課) ない。

(委員) ソーラー発電機はあるのか？

(水産課) ない。

(委員) 高度衛生管理化は、若年層の就業者の増加に効果があるのか？

(水産課) 直接効果があったと断言はできないが、基盤整備の目的は、漁業活動の効率化や安全であり、それにより就業者の増加につながるものと考えている。

(委員) どこへ流通しているのか。トラックで陸送か？

(JF・水産課) 主に京阪神を対象としている。トラック輸送が主である。

3. 現地での質疑(和江漁港岸壁にて)

(委員) 新沖防波堤は当初計画に無かった施設だが、追加することになった経緯は？

(水産課) 整備を進める中で、要望があったことから追加することとなった。

(委員) まき網は和江の全体の取扱量のうちの何割を占めるか？

(水産課) 約2割である。

(委員) なぜ、まき網は高度衛生荷さばき所で水揚げしないのか？

(水産課) まき網の水揚げには大型の選別機が必要なため、今回の施設内に収まらなかった。

(委員) まき網の魚種は？

(水産課) アジ・サバである。

(委員) まき網の魚も、高度衛生管理と同じ競りにかけるのか？

(水産課) まき網の魚は旧荷捌き所で競りを行い、競りの時間をずらしている。

(委員) 沖防波堤の設計は、近年の大きな台風などを考慮しているか？

(水産課) 30年確率波高を使用している。日本海は、台風よりも冬期風浪の方が激しいので、冬期風浪の波で設計している。

(委員) 堤防が無いと波が港内に入るのか？

(水産課) 今日潮位が高いが、計画された堤防が無いと港内に波が入ることになる。

(委員) 高度衛生管理を通らないまき網の魚の鮮度など品質確保はされているのか？

(水産課) まき網は夜間に操業し、朝に水揚げをし、そのまま出荷するので、品質は問題ない。養殖飼料向けの魚は選別されずに出荷されるが、食用の魚は選別機にかけ、規格を揃えた上で氷とともに箱詰めし、品質確保に努めている。

4. 現地での質疑(五十猛漁港荷捌き所にて)

(委員) 「サメ漁」は行われているか？

(水産課) 現在は行われていない。

(委員) 港内の浚渫を実施したことがあるか。ここは砂が溜まりそうだが？

(水産課) 今回の事業では実施していない。

(委員) 近年はアジが不漁と聞いているが、本当なのか？

(水産課) この3年ほど不漁が続いている。時化による影響もあるが、詳しい原因は不明である。年によって獲れる魚種が変わることがある。以前はイワシが大漁の年、サバの年もあった。

(委員) 最近、獲れるようになった魚種があるのか？

(水産課) 近年、サワラがよく獲れるようになった。資源管理よりも海水温の上昇など自然の力によるものが大きく、人の力ではどうにもならないが、TAC制度の漁獲の管理により資源の維持に努めている。

(委員) 実際には若年層が一番働くのでは？

(水産課) 20代は仕事を覚えるまで半人前、30から40代が一番働き盛り。

(委員) 若年層の就業者を増やすためには、幼少期の教育現場にもアピールするべきではないか？

(水産課) 学校などへの出前講座や体験学習などを実施している。